



TORROAD CRAFTART FAIR 2005

トアロード。
クラフトアートフェア

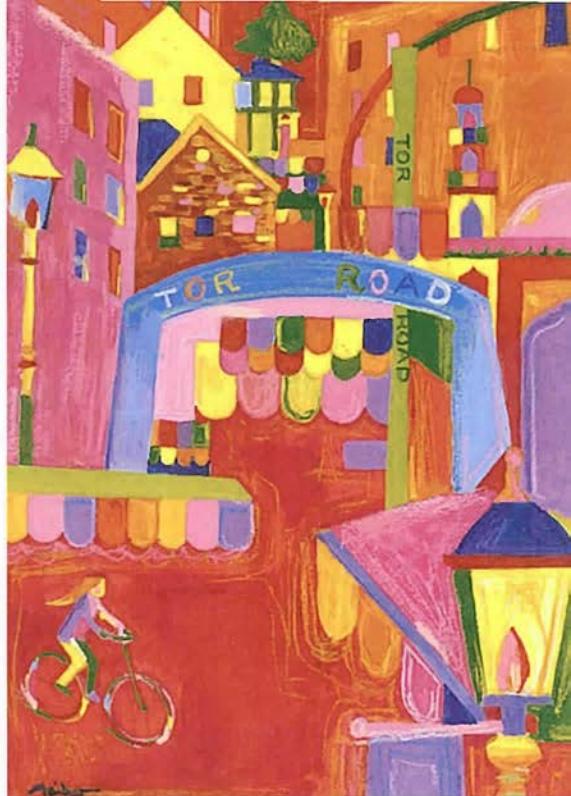
10月8日(土)・9日(日)

10:00~18:00 トアロード一帯

雨天決行 台風等やむをえず中止の場合は翌週15・16日に開催

■問 トアロード・クラフトアートフェア実行委員会 ☎078-801-7992 <http://torcraft.jp/>

トアロードの歩道沿いに、ずらりと並ぶ展示ブース。今年も全国各地から寄せられたたくさんの応募の中から、約50の出展者が選ばれ、それぞれに個性あふれる作品を持ち寄り、展示・販売。陶器、絵画、手芸品、木工、ガラス工芸品、アクセサリーなどなど、マイスター自慢の「ここでしかない」商品たちが勢揃い。あなただけのお気に入りの一点を見つけて行こう。



■関連イベント クラフトアートセミナー

子どもたちが気軽にクラフトに親しめるチルドレンブース、吹きガラス体験などを開催。無料。

ストリートミュージック・ 似顔絵コーナー

トアロードの街角でミュージシャンがライブコンサート。2日間の間、数回ステージを開催。似顔絵コーナーのブースも企画されている。



KOBE JAZZ STREET

第24回 神戸ジャズストリート

10月8日(土)・9日(日)

12:00~17:00 三宮・北野町・トアロード界隈

■問 神戸ジャズストリート実行委員会総務局 ☎078-232-3211
<http://www.kobejazzstreet.gr.jp/>



★オープニングパレード

両日とも11:00から阪急三宮北側広場より

★会場

神戸外国俱楽部／北野工房のまち／ソネ異人館通／インドクラブ／CROSS／BASIN STREET／MIDNIGHT SUN／GREEN DOLPHIN／DAY by DAY／ソネ／神戸女子大学教育センター／神戸電子専門学校ソニックホール／神戸バプテスト教会／春志音／新神戸オリエンタルホテル

今年は国内外から約300人のプレイヤーが参加。入場券がわりのワッペンをつけて「ジャズのはしご」が楽しめる。

●NHK神戸放送局も会場になります!

無料でジャズコンサートが楽しめます



1日券 4,600円(前売4,000円)

両日券 8,500円(前売7,400円)



NHK神戸新会館が
1月17日にオープンしました!
気軽にお越しください!

「おーい、ニッポン 私の・好きな・兵庫県」

BS2で全国生中継 10月2日(日)午前11:00~午後6:00

NHK神戸放送局

1階トアステーション恒例イベント

(入場自由)

○毎週水曜日

午後2:30~<トアステ・ピアノ・アフタヌーン>
午後のひとときをピアノ演奏でお楽しみください

○毎週金曜日

午後6:10~<カフェ・トアステーション>
金曜の「ニュースKOBE発」はトアステーションからの公開放送
午後6:30からはジャズの生演奏もお楽しみいただけます



神戸元町 ミュージックウイーク 10月8日(土)~16日(日)

神戸元町周辺地域 神戸元町商店街

■問 元町ミュージックウイーク実行委員会 078-331-1045
ストリートコンサートに関しては 078-332-1579 (アルチザンハウス)
<http://mmw.jp>

商店街の中や、周辺の路上、広場などでのストリートコンサート、元町地域のホールでの有料コンサートなどを開催。クラシック、ジャズ、ポップス、民族音楽などジャンルは問わず、期間中は元町一帯がさまざまな音楽に包まれる。

ストリートコンサート

10月8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)

場所 大丸神戸店カフェラ前／南京町広場／元町商店街一番街東入口／ヤマハミュージック神戸前／グレゴリー・コレ前(三番街)／まちづくり会館(4丁目)／5丁目中央付近／6丁目フォールパーク前／6丁目西入口

ホールコンサート

■WADAホール(和田興産2階)

- 9日(日) 13:30 ピアノのハーモニー
- 12日(水) 19:00 モダンアンサンブル
との出逢い
- 15日(土) 14:00 女声合唱団
とおんきごう演奏会
- 16日(日) 15:00 バーカッショն
“たまで箱”コンサート

■ユーハイム3Fホール

- 8日(土) 14:00 華麗なる
チエロアンサンブルの響き!
運命～宇宙戦艦ヤマト!
- 9日(日) 14:00 アンサンブル“奏”
秋のコンサート

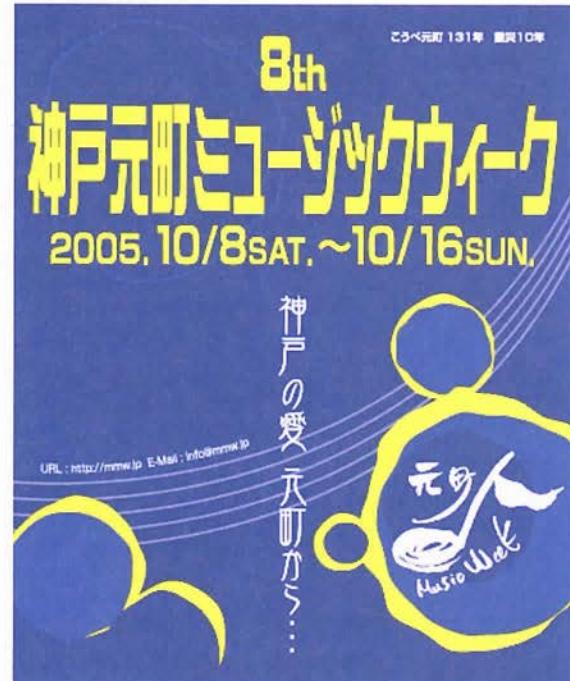
■神戸新聞松方ホール

- 11日(火) 19:00 元町から生まれた音楽
～スクエアピアノと神戸中央合唱団

■ホテルオークラ神戸(チャヘル・リバージュ)

- 12日(水) 19:00 侯野ゆみ ヴィオラの調べ
- 13日(木) 19:00 金閨環 無伴奏バッハの
タベ
- 14日(金) 19:00 フラワーミュージック・
ファッショニショー
(花にちなんだ世界の名曲をチャペルで)

その他、神戸市立博物館、神戸中央郵便局、神戸風月堂ホール、エスタシオン・デ・神戸、丸太や、ヤマハミュージック神戸、アマデウス、Jazz CAFE M&Mでコンサートを開催





秋のイベント情報

秋の文化イベントスタンプラリー

神戸アートウォーク2005

9月1日(木)～12月11日(日)

■問 神戸市民文化振興財団内 ☎ 078-351-3597

この秋、神戸で開催されるさまざまな文化イベントをめぐり、会場に設置されているスタンプを集めて応募すると、すてきなプレゼントが当たるスタンプラリー。賞品は、シーサイドホテル舞子ビラ神戸宿泊券をはじめ、人気レストランの食事券、美術展の招待券、オリジナルグッズなど多数。まずは右のイラストのチラシ(スタンプシート)をゲットしよう。

対象イベントのご紹介

オペラ界の新星

田島茂代 ソプラノ・リサイタル



バッハやモーツアルトの作品に適している声を持つ、と評価されるソプラノ歌手・田島茂代。声の美しさのみならず、抑制されたヴィヴラートを用いた様式感あふれる曲の解釈、豊かな表現が魅力。リヒャルト・シュトラウス作曲の歌曲、日本の歌曲を歌う。

日時 10月9日(日)15:00

場所 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

<http://www.maikovilla.co.jp>

☎ 078-708-8888

料金 4,500円(前売4,000円)

主な対象イベント

神戸ジャズストリート／トアロード・クラフトアートフェア／第10回アニメーション神戸／神戸元町ミュージックウィーク／神戸100年映画祭／fis「アンデルセン生誕200周年記念・北欧フェア」／神戸市演奏協会演奏会ほか

主な会場

兵庫県立美術館／神戸ファッション美術館／神戸市立博物館／大丸ミュージアムKOBE／神戸市立小磯記念美術館／神戸国際会場こくさいホール／コープこうべ生活文化センター／神戸新聞松方ホール／神戸文化ホール／神戸アートビレッジセンター／シーサイドホテル舞子ビラ神戸ほか



神戸アートアニュアル2005

「眺めるに触れる」(仮)

関西在住の若手作家の発掘・育成を目的に、コンテンポラリーアートの可能性を追求するユニークな展覧会。若手作家の斬新で、みずみずしい表現があふれる。

日時 10月22日(土)～11月13日(日) 11:00～20:00

場所 神戸アートビレッジセンター(KAVC)ギャラリー

<http://www.kavc.or.jp> ☎ 078-512-5500

料金 無料

復興KOBE

PERFORMANCE STREET

三ノ宮南にどんどんが集結!



華乃家ケイ率いる浪花のどんどん屋「華乃家」

JR三ノ宮駅南から磯上公園、フラワーロードから国際会館の三ノ宮南地区で開催。個性的なカフェやショップなどが並ぶこの地域に、神戸・大阪のどんどん隊が集まって、にぎやかなパレードが行なわれるほか、磯上グラウンドではフリーマーケット、実力派インディーズバンドによるミニライブコンサートなどが予定されている。

Information

11月12日(土) 13時スタート

※雨天中止(小雨決行)

■問 三ノ宮南まちづくり協議会

☎078-231-4970(9:00~17:00/月~金曜)

Jazz&Talk Special Concert

帰って来た 11PM

かつての出演者と、そのジュニアが繰り広げる、
ごきげんなジャズと楽しいトーク。



伝説の番組「11PM」が帰ってくる—。

父・小曾根実とともに6歳で同番組に出演した小曾根真や25年間ホストをつとめた藤本義一らが出演。「A列車で行こう」「帰ってくればうれしいわ」など、スタンダードナンバーをお楽しみください。安藤孝子、小曾根啓、畠浩史、奥村英夫ら豪華出演陣も参加。

Information

11月11日(金) 18時30分開演

神戸文化ホール

(地下鉄「大倉山」駅下車すぐ)

■問 神戸文化ホール ☎078-351-3597

前売 4,500円

当日 4,800円

秋のイベント情報

ウーロン亭ちゃ太郎の

オペラ落語 引退公演



おもしろおかしくオペラの世界へと誘うオペラ落語。その創作者、ウーロン亭ちゃ太郎の引退公演が神戸にやって来る。有名なアリアを地声のバリトンと裏声のカウンターを絶妙に使い分け歌い上げながら、オペラのおもしろさとストーリーを落語の口調で解説。地声は50歳までという持論から今年で引退するため、神戸では今回が最後の公演となる。神戸で2公演、三田で1公演が開かれる。

Information

10月7日(金)19時開演
会場:神戸新聞松方ホール ホワイエ
JR神戸または地下鉄
ハーバーランド下車徒歩約5分
■ヴェルディ「椿姫」 ■モーツアルト「魔笛」
■問 松方ホールチケットセンター☎078-362-7191
神戸芝居カーニバル実行委員会☎090-1914-4907(中島)

前売 2,200円
当日 2,500円
友の会 2,000円

10月8日(土)19時開演
会場:サロン・ド あいり
三宮下車徒歩約5分
■ヅッチーニ「トスカ」
■モーツアルト「フィガロの結婚」
■問 サロン・ド あいり☎078-241-1898

前売 4,000円
(1ドリンク+家庭料理付)

10月9日(日)14時開演
会場:三田市立ウッディタウン市民センター大集会室
ウッディタウン中央下車徒歩約10分
☎079-565-2443
■レハール「メリヤー・ウイドゥ」
■マスカーニ「カバレリア・ルスティカーナ」
■問 田中和人☎079-569-1225 小川佳子☎079-565-2007

前売 2,000円
(1ドリンク付)

呉錦堂生誕150周年記念

移情閣フォトコンテスト 入選者作品展



華僑・吳錦堂氏の別荘として、風光明媚な舞子の地に大正7年に建てられた移情閣。神戸華僑の成功者の一人として名を残した吳錦堂氏の生誕150年を記念して、彼が愛した移情閣を撮影対象としたフォトコンテストを開催。

応募は9月末日で締め切られたが、入選作品は三江ギャラリーにて展示されるばかりでなく、吳錦堂氏ゆかりの中国浙江省の慈溪市においても展示される。

孫文も訪ねたという移情閣。その美しい姿と背景の白砂青松を切り取った写真は、舞子の地に架かる明石海峡大橋のように、日中友好の架け橋になるだろう。

Information

期間・11月1日(火)~10日(木) 会場・三江ギャラリー
神戸市中央区多聞通2-1-12 ☎078-371-8627
JR神戸駅から北へ徒歩約3分 裁判所通り東に入る

1905年神戸に生まれた今竹七郎は、日本のグラフィックデザイン界において、先駆的な役割を果たしたデザイナーの一人。

神戸大丸入社を皮切りにグラフィックデザイナーとして活躍し、戦後、企業のアートディレクターとして活躍。「オーパンド」の茶色と黄色の箱、「メンターム」のメンターム・キッドなどのロゴマークも今竹がデザインしたもの。本展では、作品、今竹が集めたコレクション、資料とともに「人間・今竹七郎」の魅力に迫る。



モダンデザインのバイオニア 生誕100年 今竹七郎大百科展

西宮市大谷記念美術館
(阪神「香椎園」駅下車徒歩10分)
10/8(土)～11/27(日)
水曜休館(11/23開館)
10:00～17:00
一般500円 大高生300円 中小生200円
■問/西宮市大谷記念美術館
☎0798-33-0164

白鶴美術館新館開館10周年記念展「文様の宝庫 オリエント絨毯」、同時に秋季展「古代中国青銅器—神秘の心を見つめて—」を開催。

文様は、文化への通い路。古代中国の青銅器にほどこされた奇怪な目の文様は、人々の願い、恐れの心の現われだろうか。そして、ペルシャ・トルコ・コーカサスの絨毯は、願い、祈りを込めた文様が形に現れている。

それら文様世界の背後に広がる、オリエントの精神風土に思いをはせたい。



白鶴美術館 秋季展 文様の宝庫 オリエント絨毯

白鶴美術館
(阪神「御影」、JR「住吉」から市バス38系統渦森台行「白鶴美術館前」下車)
開催中～11/27(日)
月曜休館(10/10開館)
一般800円 大高生500円 中小生250円
■問/白鶴美術館
☎078-851-6001
<http://www.hakutsuru.co.jp>

戦後60年、震災後10年を機に「やさしさ」をテーマにした作品を上映。10月28日(金)はビフレホールで山田洋次監督を迎へ、「男はついらいよ寅次郎紅の花」他を上映。

11月1日(火)～3日(木祝)は諸外国からのヒューマンドラマ、戦争と平和に関する作品から「少女ヘジャル」「ふたりのトスカーナ」などを上映。

4日(金)～6日(日)は神戸アートビレッジセンターで淀川長治氏を偲んで、懐かしのクラシック映画「山猫」「キューポラのある街」「僕の村は戦場だった」などの上映が予定されている。



ハンダン・イェクチ監督作品「少女ヘジャル」
(2001年トルコ)

第10回神戸100年映画祭

神戸市立博物館
新長田ビフレホール
神戸アートビレッジセンター
神戸新聞松方ホール
10/28(金)～11/7(月)
1,200円(前売1,000円)3回券2,500円
■問/100年映画祭実行委員会
☎078-332-7050
<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~kff100/>

オランダ最大の美術館であるアムステルダム国立美術館は、黄金時代と呼ばれるオランダ17世紀の優れたコレクションによって世界的に知られている。この時代を代表する画家・レンブラントやフェルメールらの作品は、後の美術史に大きな影響を及ぼした。

今回、同美術館のコレクションの中から、フェルメール「恋文」、レンブラント「青年期の自画像」をはじめとする絵画の名品や工芸作品を展示。世界を巡回するこの展覧会は、日本では神戸のみの開催となっている。必見！



オランダ絵画の黄金時代
アムステルダム国立美術館展

兵庫県立美術館
10月25日(火)～11月15日(日)
10:00～18:00(金土曜は20:00まで)
月曜休館(12/28～1/4休館)
一般1,400円 大高生900円 中小生500円
■問/兵庫県立美術館
☎078-262-0901
<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

ライブハウススケジュール

ジャズライブ&レストラン SONE

- 10/1(土) 新井雅代+トリオ
 2(日) ロイヤル・フラッシュ・ジャズバンド
 3(月) 杉山千絵+トリオ
 4(火) 大越理加+トリオ
 5(水) 辛島寿美子+トリオ
 6(木) Yoshika+トリオ
 7(金) 北莊桂子+トリオ
 8(土) 北莊桂子+トリオ
 9(日) 鍋島直穂クワルテット+新井雅代
 10(月) ロアナ・シーラ
 11(火) 辛島寿美子+トリオ
 12(水) 谷山和恵+トリオ
 13(木) 北莊桂子+トリオ
 14(金) 北莊桂子+トリオ
 15(土) ベティ鞍富+トリオ
 16(日) 原田紀子・水田欽博トリオ
 17(月) 升本しのぶ+トリオ
 18(火) キャンディー浅田
 19(水) 大越理加+トリオ
 20(木) 古谷充クワルテット
 21(金) 新井雅代+トリオ
 22(土) 大越理加+トリオ
 23(日) 甲南Untitled Jazzオーケストラ
 24(月) 矢野麻衣子+トリオ
 25(火) 新井雅代+トリオ
 26(水) 岩宮美和ひがたり+ギタートリオ
 27(木) 長谷川元伸クワルテット+大越理加
 28(金) 宮野英子+トリオ
 29(土) ジャネット+トリオ
 30(日) モダンタイムス・ビッグバンド
 31(月) 増田真智子+トリオ

■JAZZ LIVE & RESTAURANT SONE

北野坂 078-221-2055 無休

<http://kobe-sone.com>

★ミュージックチャージ900円

★日曜日昼下がりのジャズライブ開催中

クラシックライブハウス ピア茱莉アン

- 10/2(日) 村上由香&出水世利子(ピアノデュオ)
 5(水) 中村真美(クラリネット)藤溪優子(p)
 6(木) 湯川紗代(フルート)三村哲子(p)

- 8(土) YORAM LEVY(トランペット)朝比奈加代(p)
 9(日) 田原綾子(ソプラノ)森玉美穂(p)
 11(火) 宇田有美子(フルート)鈴木華重子(p)
 13(木) 佐藤和宏(クラリネット)大西隆弘(p)
 14(金) 林典子(p)
 16(日) 羽賀田香(p)
 18(火) 中島悦子(ヴィオラ)林典子(p)
 19(水) 藤川健(テューバ)植田浩徳(p)
 20(木) 小笠原薫(ヴァイオリン)山内尚子(p)
 21(金) 鈴木華重子(p)
 22(土) 並木円(ソプラノ)藤江圭子(p)
 23(日) 金子鈴太郎(チェロ)林典子(p)
 27(木) 本吉優子(ヴァイオリン)林典子(p)
 28(金) 新保江美(フルート)平山善恵(p)
 29(土) 中鼻佐和(ヴァイオリン)
 30(日) 小槻周一(フルート)藤原友紀(p)

■クラシックライブハウス PIA Julien

三宮駅北側近藤ビル9階
 078-391-8081 月曜定休
<http://PIA-julien.com>

ジャズクラブ Holly's

- 10/6(木) 高貴みな(vo)杉本亨(p)
 7(金) ゴスペル TheEarthBorn
 8(土) 三浦昌彦(tp)カルテット
 13(日) 鈴木久美子(sax)宗川信(b)他
 15(土) Jazz&ダンス/Wataru&長井美恵子
 20(木) 山本容子(p)他
 21(金) 坂崎拓也(b)清水勇博士(dr)他
 22(土) Robin Eve(尺八)Ron Mason(g)Dave Boyle(tb)小出恭正(b)松井道朗(dr)林幸(vo)
 27(木) Session(楽譜持参)
 28(金) 高貴みな(vo)他
 29(土) 荒畑佐千子(vo)赤松真理(p)他

■KOBE JAZZCLUB Holly's

三宮駅北徒歩7分、新神戸駅南徒歩7分
 加納町 078-251-5147
<http://www.kobe-hollys.com>

ライブハウス チキンジョージ

- 10/1(土) Gargoyle
 2(日) 大島保克
 6(木) きたがわてつ&和太鼓・三好大地ジョイントライブ
 8(土) Synchronized DNA
 14(金) 亀渕友香&VOJA
 21(金) 永井隆&THE BLUES POWER
 29(土) THE STREET BEATS

■THE LIVE HOUSE CHICKEN GEORGE

生田神社西 078-392-7431
<http://www.chicken-george.co.jp>

ジャズ喫茶 萬屋宗兵衛

- 10/1(土) Kengo.ThreadFlow05
 4(火) ミクロボディウム(ハンガリーの超絶技巧人形劇)／くすのき蒸(日本の肩掛け人形芝居)
 6(木) STANDARD HARMONY JAZZ WORKSHOP
 7(金) 浅李Duo(JAZZ)
 8(土) 真弓庸子(Vo)殿木戸悟史(B)泉川美和子(P)(Jazzと歌謡曲)
 10(月) 1st.Naga./2nd.Nancie Nicer
 14(金) シャンソン・ブチコンサート
 15(土) EMIKO Project Live Vol.2
 16(日) BabeMagnet BigBand
 18(火) OMUNIBUS(ブラジル音楽)
 19(水) 真田千依 吉川朋子 影山朋子(マリンバ・ピアノ+オルガントリオ)
 21(金) E-T Project Live
 22(土) 金谷こうすけ Go Beyond The Genre!
 23(日) 神戸ジャズ倶楽部 いとう翔ボーカル教室発表会
 24(月) 向原千草(as)他
 28(金) J's BAND
 29(土) 芦屋アプローズ・コーラス
 30(日) JO-JA(ジャズ)

■ジャズ喫茶 cafe萬屋宗兵衛

元町一一番街 078-332-1963
<http://www.sobei.net/>
 ★ノーチャージのライブはチップ制

兵庫陶芸美術館 10月1日オープン



菊文三耳壺 12世紀
個人蔵 重要文化財

休館月曜日
料金一般800円
大高生600円
中小生400円
<http://www.mcart.jp>

ドイツ・グルメ・ドイツ 音楽… ドイツ秋祭 in 神戸

日本六古窯のひとつに数えられる丹波焼のふるさと、

篠山市に「兵庫陶芸美術館」が開館。10月1日(土)にグランドオープンを迎える。

開館を記念し、12月11日(日)まで特別展「やきもの

のふるさと丹波一品でたどる800年のあゆみ」

が開催される。平安時代に成立した丹波焼は、外部の技術を取り入れながら独自の作風を生み出してきた。

本展は、同館が所蔵する田中寛コレクションを中心に、全国各地の博物館や個人所蔵の丹波焼の名品120点を一同に会し、丹波焼の流れを追いつめ魅力にせまる。10月8日(土)には、東京国立博物館名誉館員、林屋晴三さん、兵庫陶芸美術館館長、乾由明さんが参加した開館記念シンポジウム「いま、陶芸とは何か」が企画されている。

■ドイツ秋祭実行委員会
NPO法人神戸日独協会内
神戸市中央区御幸通8-1-6
神戸国際会館17階
078-230-8150

篠山市今田町上立杭4
0795-3961
開館10時～19時(金土曜～21時)

心をやさしく包み込む
可愛い縫いぐるみ展

神戸を拠点に活動しているぬいぐるみ工房「PAO工房」が、芦屋のギャラリー

樹で可愛い縫いぐるみ展を開催。

今回の展示は壁面をキャラ

ンバスに見立てて、ネコ、ウサギ、カエル、ヤモリなど動物たちを配置、一面縫いぐるみたちで彩られる。

また、ハロウィンにちなんだカボチャやクマなどのコーナーも。テディイーン(テディベア十ユニコーン)やカメレオンも

ラインナップ。ギャラリー中がユニークでかわいい「PAO工房」の世界に。

なお、期間中の10月22日(土)にはミニ「コーンサート(3000円+ディナー付き)」も。

■ギャラリー樹
10月19日(水)～11月5日(土)
芦屋市前田町7-14
JR甲南山手駅南出口より線路

沿いを東へ徒歩約10分

日～月・火休

■ドライ秋祭実行委員会
NPO法人神戸日独協会内
神戸市中央区御幸通8-1-6
神戸国際会館17階
<http://www.kcc2aq.ne.jp/stk207/>

■兵庫県陶芸美術館
篠山市今田町上立杭4
0795-3961
開館10時～19時(金土曜～21時)



個性的な「PAO工房」のぬいぐるみ

CONCERT

上松明代 ソロコンサート Volume 3!

ハンガリー国立リスト音楽院で学び、力強いフルートサウンドと、パーカッションを加えた独自のアレンジなどで、クラシック音楽のためのフルートという概念を大きく覆して

いるフルート奏者・上松明代。地元・三田でソロコンサートを開く。

クラシック、ラテンの楽曲をはじめ、日本の歌曲、そして今回初公開となる、上松明代作曲のオリジナル作品を披露。ピアノ、林有紀、バーカッショーン、木村和人。

■11月6日(日) 18時30分開演
三田市立フラワータウン
(神鉄公園都市線フラワータウン駅下車)
市民センター
前売2000円
当日2500円
078-241-7603

■上松明日公式HP
<http://www.012.upp.son.net.ne.jp/fuyuola/>



このオウムが頭にとまると
そのひとの考えをしゃべるのは
こういうことじや



1

考える というのは 脳の活動。
つまり電気信号じや
オウムの足は その信号を
感じとるのじやね



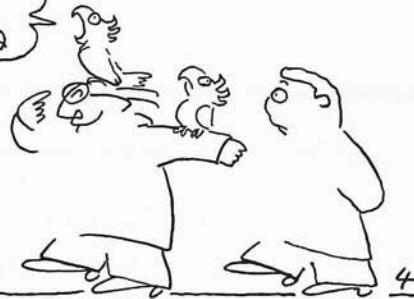
2

だから ほれ
うでに とまらせても
なにもしゃべらん



3

考えているところは 頭であり
うでではないということじゃね



4



5

おもしろいものを
発明なさったわね



6

鬼の目、市民の目線

大谷 成章(フリーライター)

剪画／とみさわかよの

「よう、大谷君。元気か」

声をかけられて、ふり返ると、近所に住んで
いる新聞社の大先輩だ。

「先輩こそどうですか。具合悪かつたと聞き
ましたが」

「そうなんや。くやしいわ」

脳梗塞で倒れ、回復してきたものの、言葉が
まだ少し不自由で、うまく鉛筆を動かせないと
いう。

「大谷君、くやしいよ。10年書き続けたかっ
たけど、ことしはあかんわ」

大先輩は『阪神・淡路大震災復興誌』第9巻
の福祉分野の最終節を書いていたときに体の異
変に気づき、自分で119に電話したが、口から
ら出るのは「*…」という音ばかりで、
救急隊員を困惑させたらしい。

『阪神・淡路大震災復興誌』というのは大震
災の復興記録。600ページから900ページ

もある分厚いものだ。第1巻と第2巻は兵庫県
が企画し、財団法人21世紀ひょうご創造協会
が発行した。その後は、財団法人阪神・淡路大
震災記念協会が企画・発行を引き継いでいる。
いわば、兵庫県の公式記録とも言えるが、学
者・研究者による編集委員会の議論に基づいて、
新聞社の元記者たちが執筆しているところがユ
ニークだ。役人が書くとおもしろくないし、行
政批判はできないだろうから、記者OBに書か
せよう、ということだった。

市民の目線で復興の足取りを追っていくとい
う、行政としては珍しい発想もあった。

8人のOB記者が集められた。その当時、『月
刊神戸つ子』にいた私にも声がかかり、まちづ
くり・都市計画の分野を担当することになった。
それぞれクセのある元記者だから、学者や研
究者の言うことを聞かないおそれがある。

「先輩、ここはきつちり束ねて、締めてもら
わないとわれわれは勝手放題にやらかすぞ」と

私たちが脅して、デスクになつてもらつた。

デスクというのは、マスコミの世界の独特的の職務だ。社の組織図や名簿には記載されていないし、名刺に表示することもないが、取材や紙面づくりの実権を握っている。取材を采配し、原稿をチェックして、あいまいな点があると怒鳴りあげる。デスクといえば「鬼」がつく。「仮のデスク」など、聞いたことがない。

先輩も現役時代は「大鬼」がつくほどで、若い記者はきびしくしごかれた。そんな鬼の目を意識しながら、私は大震災の被災地、10市10町を歩き、取材した。

第1巻で、復興都市計画事業について「住民参加による復興」という千載一遇のチャンスを逃した」「住民との対立」という不名誉なスター

ト」などと取材に基づいて記述したが、これは「失敗も批判も記録する真剣な姿勢に基づく復興誌」と全国紙に紹介された。大震災記念協会の担当職員は、県や神戸市からの出向者だが、都市計画事業に対する住民の訴訟や反対運動を取り材し原稿にすると、いやがされる」と市に帰れない」と削除を求める幹部職員もいた。

そんなとき、鬼デスクは「復興とは何や。被災者の復興か、あんたが役所に戻ることか」と一喝してくれた。

第1巻発行の打ち上げのとき、大先輩は「10年続く仕事や。体に気をつけよう」といつていた。10インチングある「復興誌」の9回裏でご本人がベンチに下がったのは残念だ。でも、回復は順調のようだから、再び鬼デスクに戻つて、叱咤激励してくれると思っている。



詩画集『神戸、あの日より—1995・故郷』から掲載 「商店街(中央区)

■ 大谷 成章（おおたに・しげあき）1939年
戸つ子編集者。元神戸新聞記者。震災当時は月刊神戸生まれ。『元神戸新聞記者。震災当時は月刊神戸大震災10年』（共著、岩波新書）など。

「五線紙の街」～神戸を彩った人たち～

文・宮田 達夫 絵・中西 省伍

神戸市の広報誌『神戸のグループ誕生』に、
石阪春生はこう書いた。



昭和52年5月29日、石阪春生のアトリエで開かれたバー・ボン・クラブ例会の席で、カネボウのコマーシャルソング『ワインカラーのときめき』を歌つた新井満が、バー・ボン・クラブの歌を作つた。

「バー・ボン・クラブの歌」 作詞作曲 新井満

一、バー・ボン・クラブのBは ビューティフルのB

バー・ボン・クラブのBは ボーライズのB

ビューティフル ボーイズ・クラブ

ビューティフル バー・ボン・クラブ

一、バー・ボン・クラブのBは ビューティフルのB

バー・ボン・クラブのBは ボールズのB

ビューティフル ボールズ・クラブ

ビューティフル バー・ボン・クラブ

「神戸の人達は京都に劣らず集まつて飲むのが大好きらしい。男っぽい酒バー・ボンを飲もうといふ会が月に一度開かれている。」
『面白半分』の編集長・筒井康隆は面白半分編集長のコーナーで「腹立半分日記」に毎回のように取り上げ、七月二十四日には次のように書いている。

「バー・ボン・クラブの例会で、会員の藤間緑壽郎邸に行き、稽古場で踊りを教わる。なかなか立派な檜舞台である。こういうのが家にも一つ欲しいものだ。
バー・ボンを飲みながら一人ずつ舞台へ出て芸をする。小唄一口噺の類が多いのは場所柄で、

皆さん芸達者である。おれはデキシーランドナガウタ越後獅子というのをやる」

本当にどうか定かではないが、このお陰で「面白半分」の売れ行きは倍増になつたそうな。

テレビ C.F. プロデューサー・新井満は、若い女性 12 月の『MAN 氏の不思議な一週間』とうエッセイの中で、水もしたたる水曜日のバーボンクラブの紹介記事を覗くと、

「今夜の会合はトーアロードのファッショングザイナーの中西省伍さんちの応接間。シャボン玉の中には庭は入れません。目玉がぐるぐる回り出しました。つぶやくのはジャン・コクトーに似た痩せの長身石阪画伯。どうして私がここに居るの? 叫ぶのは生田神社の加藤宮司。酒を一滴も一番飲まないのに酔つたように見えるのは何故か? 酔うと指圧師に変身するユーハイムコンフェクトの西さん。ボンジョルノ○×□◇イタリア語で喋りまくるのはヒゲの彫刻家の新谷秀紀サン。フフと艶笑するのはキャンティの榎さん。色っぽさと男っぽさでは玉三郎も吃驚の舞踊の藤間緑壽郎さん。ハッハッハッとテノールで高笑いするのは、ハモンドの名手小曾根実さん。抱腹絶倒、荒唐無稽の S.F. 小説とは裏腹に恐るべき照れ性マジメ人間そしてアラマンに対抗するわけではないが、僕も L.P. を出すという作家の筒井康隆さん。好きな食べ物を言つてごらん、君の人柄を当てみよう。フリア・サラバ



アラマンこと新井満

ンの如き言葉を発したのは毎日放送 MBS ナウのディレクターで大の美食家の宮田達夫氏。演出家の園の中などいう前代未聞の宝塚歌劇の裏を撮った写真展を成功させた竹内広光氏。

そしてどん尻にひかえしは、百足のワラジをはくムカデ人間になり、コラージュ人間にナリタイトトイ、ワインカラーのときめきでベスト 10 入りした新井満さんという按配。一周年を迎えた日は奇しくも十五夜で、センターホンジ編集長からお祝いの月見ダンゴが到着、バーボンのさかなにするという念のいれよう。

とにかく、人との触れあい出会いというものが無くなりかけた現代社会の中、神戸という土地柄のせいもあるにしても、バーボンクラブの人たちは出会いとふれあい、そこから個々に受けけるモノ、コラージュされるものを大変貴重なものと考え大切にしています。

円卓会議とはよく言つたもので一つのテーブルが二つになつてしまふと、もうその意味がなくなるのです。それだけにこの一つの円卓に座る人数はものすごく大切でもあるのです。

加藤宮司のクラシックな座敷、石阪画伯のロマンティックなアトリエ、竹内さんのゴールデンスター、中西さんちのブティック、松舞台付き藤間緑壽郎さんち、筒井康隆大邸宅と、アツチコッチに出向いているんです。」



宮田達夫(みやただつを)

一九三六年東京生まれ。毎日放送入社、大阪府警・大阪市、万国博などの記者クラブ担当。MBS ナウ担当後、報道局兼事業部次長(足のねらい)で、放送記者として宝塚歌舞伎を取り材。イベントプロデューサーとして活動。元事業局長。バーボンクラブ会員。フリージャーナリスト。



出石 アカル

絵・菅原洸人

題字・六車明峰

「戦後すぐにもう、仕事よおけおましたんや。みんな軍服やら国民服やらを持つてましたよつてにな、それを自分の好きな色に染めに持つて来まんねん。それまではみんな地味な色の物ばかり着てましたよつてになあ」

古川富太さん、77歳。父親の代からの染め物屋さんである。

「七男四女、11人兄弟の、わては六男でしてん。そやけどみーんな死んでしまって、今はわて一人になつてしまもた」

ほかの兄弟は、ほとんどが戦死などで早世し、子どものころに死んで顔も知らない兄弟も何人

かいると。それで自分が家業を継ぐことになつたのだと。昔は若くして亡くなる人が多かつたのだ。

古川さん、もう何十年も地域の自治会長をしていて、温厚な人柄が誰からも慕われている。今日も人の世話で走り回つていて、ちょっとコーヒー・ブレークに立ち寄つて下さつたのだ。

この人からも貴重な戦時体験を聞くことができた。悲惨ではあるが、単に悲惨さだけではない、庶民の、あふれるばかりのたくましき話を。「徵用で、飛行機のエンジンを作る工場へ行ってたんやけど、そこの食堂の賄いさんに、え

らい可愛がられて、たんまに銀シャリを内緒で食べさしてもらつたことがありましてん。ちよつと後ろめたい氣がしたけど、うまかつたなあ。家では、あのまづい麩ホモを、染め物に使う澱粉で固めて団子にしたんを食べたりしてましたよつてになあ」

古川さん、いつも自転車で町内を走り回つてるので、顔が日に焼けて丸い目玉がよく目立つ。その、人の良さそうな目をクリクリさせて話して下さる。

「8月5日の空襲で、家は丸焼けですわ。B29が飛んでも来るんを、屋根の上の見張り台から親父と一緒に見よりました。親父は町内の防空の役員をしよつたから、ぎりぎりまで逃げんと頑張つて、回りを火に囲まれそうになつてから、やつと逃げ出しましてん。逃げる途中で、弾けた焼夷弾の油が頭からかかつたんやけど、夏布団濡らして被つて助かりました。そら恐

オましたで。家、焼けてしもたけど、わてどこはどうつこも頼つて行くとこないから、焼け跡へ戻つて来ましたんや。途中で、焼け焦げた遺体を乗せた荷車に何台も会いました。そら悲惨なもんやつた」

これに似た話は、これまでにもよく聞いたものだが、次の話にわたしは胸うたれてしまつた。「まだ小さい火が残つて焼け跡へ戻つて来て、その火イで、畠で作つてたナスピを焼いて食べましたんや。あれはうまかつたなあ」

「ご本人、何事もなくサラリと話されたが、何とすることか。自分の家が焼かれて、火がまだ燃え残つていて、その火で、自分が作つたナス

ビを焼いて食べるとは。悲しさの中にも、笑い声さえ聞こえて来そな、妙なユーモアを感じてしまう。人間、万策尽きると、かえつてあつけらかんとしてしまうものなのかな。いやしかし、たくましいものである。

「そんな中で、親父と二人でバラック建てましてん。素人のすることやから碌なもん建たしまへんけどな。焼け跡から、まだ燃えよる木材拾うてきて、水かけて消して建てましてんがな。みんなそないしてバラック建てたんですわ。そやけど困つたんはトイレやつた。使えるんが少のうて、近くの者みんなで使うから、すぐ一杯になつて溢れてしまつて。そやからハエがメチャクチャわいて、家の天井いっぱい、真つ黒になるほどとまりりました。それで、新聞紙に火イつけて天井あぶりまんねん。ほんなら、羽が焼けるから、バラバラ落ちて来りましたで。きりがおまへんでしたけどな」

古川さん、身振り手振りで、まるで昨日のことのように話してください。

「風呂でつか？ 風呂は釜で湯ウ沸かして、防火用水槽に入れて、水でぬるめて、近所の者みんな順番で入りましたがな。何の匂いもない露天風呂ですわ。そこへ男も女も入りよりました。そらにぎやかでしたでえ。染め物の釜で沸かしたから青い湯ウになつたり赤い湯ウになつたりで、ほんまに温泉みたいやつた」

しかし、何とたくましき人たちだろうか。

■出石アカル（いずし・あかる）一九四三年兵庫県生まれ。「風媒花」（編集工曜日）同人。兵庫県現代詩協会会員。詩集「コーピーカップの耳」（編集工曜日）にて、二〇〇一年度第三十一回フルーメール賞文学部門受賞。

鏡の中のサウナ

中野 順哉
絵・題字 平田 郁

たちの笑顔。そこに彼女たちの発見があり、その発見が彼女たちの周り明るくしてゆく；そして「発見」は僕自身が提示する。

「タカシ美容室」：見慣れない南仏風の店構えは多くの人の目をひいた。流行といえば猫も杓子もサスーン一色になりかけていた時に、突然顔を出したこの店にやつてくるのは比較的落ち着いた年齢層の女性たちだった。彼女たちは友を呼び、その友人が又新しいお客様を呼んでくる、そんな調子で店は順調に回転していった。僕は以前のように「何をどう考えるべきか」といった悠長なことは最早考えてはいなかつた。それよりも「美しくなりたい」と願う頭が次々と目の前に現れ、もつとはつきりとした現実として僕を取り囲んでいた。そこに見えるのは確固とした頭髪の形と、漠然とした人々の思い：それらを見極めることに日々追われ、そしてそれが快感となり、習慣となつていった。

この人ははどうなりたいのか？この人の髪質はその思いにどう合致するのか？その接点を忠実に追いかけると、流行というのはエッセンスでしかなくなつた。日本に何をもたらすのかなどという妄想よりも、満足げに鏡を眺める『婦人

を書いているんだ』

この体験は僕に自信を与えた。というよりも、もう誰の手も借りずに、自力で壁を登つてゆくしかないんだという思いにただただため息が漏れたというのが正直なところだつた。

「理論じゃない。理屈でもない。人の心をどれくらい受け入れることができるのかが勝負なんだ。人を知り、人の思いを受け入れる：その幅が広くなればなるだけ、お客は輝いてこの店を出る。美容であれなんであれ道は道。究極は：愛するつてことなかもしれないな…」

すこし大きな声の独り言。閉店後の鏡に映つた自分の顔を見て、さつと僕は赤くなつた。

あつという間に五年の歳月が流れた。一九八一年、僕は三十三歳になつた。店は益々忙しさを増し従業員も増やした。従業員に対して僕は安藤さん仕込みの強烈なヒエラルキーを与えた。義務も与えなかつた。それでも彼らは懸命に働いていたし、腕も上げていつた。何も言わなくとも店はいつも綺麗だつたし、彼ら一人ひとりにお客もつき始めていた。



ちょうどその頃、神戸という街 자체もにわかに活気付いていたようだった。「最小の経費で最大の市民福祉」を理念とした神戸の都市経営は全国的にも注目されつた。中でも山を削りその土をもつて海を埋め立てるという発想は「ポートピア」と呼ばれる人工の島を生み出し、そこで三月から博覧会が開かれ、毎日多くの人を神戸に招いていた。まさに「株式会社神戸市」は、戦後復興の見事なモデルとなつていたようだ。この勢いを見越してか、それとも僕のわがままに抗しきれなかつたのか、音楽家の延原も神戸に住むようになつていた。彼は毎朝開店前に店に顔を出しては僕を朝食に誘つた。そのうちある店が二人にとつて「朝食専門」の喫茶店となり、自分たちで持ち込んだはちみつなどを置いてもらうようになつていて。

延原も相変わらずとても忙しそうだった。何でも室内楽団体の経営の上で、何らかの大きな賞を受ける必要があるとかで、顔をあわすと二言目には「サントリーユ賞」という僕にとつては耳慣れない言葉を口走つていて。

「それってそんなに大事な賞なん?」

「まあな……ここ五年のうちにとれれば万々歳というところかな?」

「団体のため? それとも自分の名譽?」

延原は最近少し薄くなつてきた頭を両サイドの毛で隠そうとしながら、眼鏡をはずした。

一生懸命になられへんで。僕らの活動は文化的には大事なことかもしれないが、参加してる連中にとってはそれ以前に生活もあるやう。巻き込

んだ僕にはそれを何とかせんとあかん義務がある。団体の経営に必死になるのもそのためや」「やつぱり君は人のためにばかり奔走しているんだね。でも、本当にそれで団体っていうのは発展するのかい? 君が偉くなつて:少なくとももつともつたいたぶつた、尊大な男になつていいないと、結局は団体を躊躇させるんじゃないかな:少なくとも毎朝僕と朝食を取つてちや駄目だよ」

「はははは:おおきに。あんたくらいやな、僕のことを持ち上げてくれるんは」

そんな話をしながらも二人の間には、どこか明日は明日でなんとかなるだろうという樂觀的な氣分が漂つていた。漠然としていたが将来は明るいと、どこかで強くそれを信じていたのだろう。この街の発展とともに:」

そんなある日のこと。閉店時分の店の前に一台の外車が止まつた。中から飛び出すように一人の男が降りてきた。男はぐいっと店の扉を開けると店員には挨拶もせず、まつすぐ僕のほうに向かつてきた。増岡だつた。

「よう!」

懐かしい声に思わず背中がぞくつとした。僕は店員に染色用のコンブを渡すと、そつとお客様から離れ、増岡を店の隅に引つ張つていった。

「元気だつた?」

「ああ、まあな。随分盛況じゃないか」

「新聞記事を読んだぜ。神戸をパリにするんだつて? 頑張つてるじやないか」「ああ:あの記事」

延原が連れてきた新聞記者にいろいろと話していったことが先週記事になっていた。増岡はそれを目ざとく見つけたに違いない。相変わらずだと思う一方、何か昔いじめられたガキ大将にでも会うかのような気分で、店員の手前僕はち

よつとどぎまぎしていた。ようやくそれを悟られないようすに氣を落ち着かせて「今、最後のお客なんだ。直にすむからそこのソファに座って待つてくれよ」と言つた。増岡は軽く頷くとソファにどっかりと腰掛けてタバコに火をつけた。

た。

最後の客が帰ると僕は増岡を連れて外に出た。簡単に夕食をすませ、よく立ち寄るスタンドバーに入った。

「連絡の一つでもくれば良いのに。いつ日本に帰つてきたの？」

「帰つてきちゃいないよ、ちよつと立ち寄りただけさ」そう言つて増岡はバー・ボンウイスキーをかたむけた。

「すぐ出てゆくよ。シンガポールにね」「シンガポール？」

「そうさ、まさに新天地だよ。新しい店を出すことにしたんだ。パトロンも見つけたし」

「そいつはすごいね。でもそれだつたら何だつて日本に立ち寄つたの？」

増岡はぐつと一息でグラスを空けると、もう一杯頼んで眉をよせた。

「君にちょっと相談があつてね：今度の店、一緒にやら





ないかと思つてさ」

「え？ 今度の店つて…シンガポールの？」

話の成り行きはなんとなく予期していたものの、余りの唐突さに僕は大きな声をあげてしまつた。その様子をさもおもしろげに見つめながら増岡は続けた。

「知らない国で店を出すなんて途方もないと思つてゐるんだろ？ でも心配ないよ。その店がうまくいけば今度は東京に一店舗ブランチを作らん。その時は君にオーナーになつてもらお

うと思つてゐるんだ。どうだい？ 悪い話ではないだろ？」

「でも…僕は今自分の店もあるし、満足もしている。わざわざ場所を変えるなんてことは…」「本気か？ オイオイ、しつかりしてくれよ！

まさかこの神戸が流行を生み出すなんて本気で信じてるわけじやないだろ？ 少なくともこんな所でご婦人がたの頭を弄繰り回してたって、君はいつまでたつても業界のリーダーにはなれないぜ。リーダーになれないってことは、いつも

でたつても客は君のこと、半信半疑の目で見続けるつてことだ！そんなことで良いのか？」

「それでええんや」

とその時増岡の後ろから勢い良く声が割り込んできた。増岡はさつと振り返り「なんだ君は！」とにらみつけた。果たしてそこにいるのは延原だつた。僕は増岡の肩をぽんと叩くと

「増岡、いいんだよ、そいつは僕の友達で延原って言うんだ。音楽家だよ。延原、紹介するよ、安藤先生のところで修行中に出会って以来の友人で増岡…ところでよくここが分かったな」「さっき店に電話をしたんや。そしたら昔なじみと出て行つたって店の子が教えてくれたから、もしかしたらと思うてここに来たら案の定。そやけど話は聞かせてもらひたで」

そう言つて延原は増岡をにらみつけると、語氣を多少荒げて言つた。

「あんなあ、あんたは一体全体何がしとうて美容してるんや？ 美容かて芸術やないか、芸術やるのに神戸も東京もシンガポールもあるかいな、ええ加減にせなあかんで」

「君、失敬な男だな！」

増岡は顔色をえて、息も荒くなりながら、ようやく怒気を抑えるように抗弁しようとした。しかし延原はそれを許さなかつた。

「やかましい！ 黙つて聞け！ 芸術にも色々あるけど、究極のところは人が相手の仕事やないか。その業界でリーダーになりたいというのは分かる。人間や、そんな業もあるやろう。そやけどそれになんて孝が必要やねん。孝は孝で自分の店を持つて、そこで人と触れ合いながら精

進重ねてるんや。あんたみたいなこと言うてたらシンガポールに行こうが、ニューヨークに行こうが何にもならへん。大体あんた、孝の話で

は一緒に留学したそうやないか。孝はそこで何か見つけてきたぞ！ あんたはなんや！ そこで何か見つけたか！ ほんまに何か見付かつたんやつたら、わざわざこんな所には来んやろ！ 違うか！ あんた、自分がふらふらしてるから、仲間を誘つて安心しようと思うてると違うか」

その後口論というよりは延原の一方的な弁舌が小一時間続いた。増岡は何度か反撃を試みたが結局は白旗を振つた。そして「じゃあな」と一言残すと、そそくさとスタンドバーから飛び出していった。

「ちよつと…やりすぎと違う？」

僕がそう言うと延原はにこりと笑つて「そやな」と舌を出した。

「そやけど、やり過ぎやと言う割には、なんかすつきりしてやないか」

今度は延原が口を尖らせた。

「今夜がはじめてさ、あいつの肩を僕がぽんと叩いたのはね…」

「なんやつまらん」

結局その晩は一人で朝まで飲み明かすことになつた。

■中野順哉（なかのじゅんや）
一九七〇年生まれ。関西学院大学文学部フランス文学科卒業。日本テレマン協会代表代行。
上方講談の作家でもあり、すでに二〇を超える作品が上演されている。



「第18回世界心身医学会議」に出席されるため、8月21日天皇・皇后両陛下が神戸に。兵庫県公館で井戸兵庫県知事と昼食をとられ、震災被災者を気遣われる質問をされたという。写真は沿道の市民にお手を振られる美智子皇后様。



2005メリケン地蔵盆開く

メリケン波止場のお地蔵さんに祈念する「第19回メリケン地蔵盆」が8月21日しぶやかに。再度山大龍寺・井上師の法話、ジャズクインテッドのライブなどを楽しんだ。



第3回ユニバーサル デザイン全国大会



高齢者や障害者をはじめ誰もが暮らしやすいユニバーサル社会のための「第3回ユニバーサルデザイン全国大会」が8月17・18日神戸で開催された。シンポジウムや、障害者や妊婦なども着やすいおしゃれなファッショショ等が行われた。

コウベスナップ

こうべ 海の盆 2005

→地元市民や、さまざまな国の人々が一緒に踊るのが特徴の「2005年こうべ海の盆」が8月20日メリケンパークで賑やかに。国際盆踊りコンテストには浴衣姿の外国人も多数。

↓明石市伝統文化こども教室は、日本舞踊や上方文化、舞台演出やダンスを学ぶ子ども教室。7・8月に全6回にわたり中崎公会堂で開かれた。写真は子どもたちに日本舞踊を教える大和松蔵さん。



矢田立郎さんを励ます会
→現神戸市長の矢田立郎さんを励ます会
が8月31日新神戸オリエンタルホテルで開かれ、経済人・文化人が多数集った。



ミプロキッズフェア 2005



電気12高ギメリアル
フェニックス・ジャズ・フェスティバル



↑震災の年から始まった「フェニックス・ジャズ・フェスティバル」が、今年も8月28日神戸文化ホールで。震災メモリアル・ジャズ・オーケストラの演奏時には震災直後の街、復興した街の写真がスクリーンに。アメリカの名門、バークリー音楽大学から学生、教授陣のバンド、今回はケイリー・バートン率いる若手演奏家の「Generations」が登場。



↑美容室「IMAGINE」が開催する写真展「100人の笑顔展」が9月3~8日トヤギャラリーで開催。美容室を訪れたお客様やスタッフの笑顔、イラストなど、思わずこちらも笑顔になってしまう写真展。



→日本画家の片上香苗さんの個展がギャラリー「ミムラ」で開かれた。



↑福祉機器、ユニバーサル玩具の体験や、車椅子のスポーツ教室などが開かれる「ミプロキッズフェア2005in神戸」が9月10・11日ニチ学館ポートアイランドセンターで。同日、開港前の神戸空港で、車椅子陸上競技のトップアスリート・廣道純さんと子どもたちが車椅子マラソン教室を。



↑今年12月に開催される「震災10年神戸からの発信・フィナーレへ〜ありがとう!そして明日からも〜」の記者発表会が、会場となる神戸ウイングスタジアムで行なわれた。ゼネラルアドバイザー・ばんばひろみさん、プロデューサー・森下悦伸さん、竹中幸雄事務局長が出席、ミュージシャンが集まり音楽とトークで楽しいステージをと説明。



↑(株)ヒサコネイル創業30周年、ヒサコヤマサキネイルスクール開校20周年記念パーティーが開かれた。高齢者を訪問してのネイルケアなど、心を癒すネイルセラピーを目指し、活動を続けていている。写真はあいさつをする山崎比紗子代表取締役。



↑9月9日、北野天満神社で「九月の会」開催。神社内の舞台上にさまざまなアーティストが登場。写真は、インド古典舞踊家・膝原真奈美さん。



←鶴田稔万&SONARゴスペルライブが、8月28日六甲のライブハウス「マイデンボエッジ」で。ソウルフルなライブの最後には、鶴田率いるゴスペル教室の生徒たち数十名が舞台に上がった。

↓カラオケスナック「ちか」主催なつメロ歌謡ショーがボストンクラブで開催された。

